

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100675		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム みんなのいえ (さくら)		
所在地	〒020-0851 盛岡市向中野二丁目55番6号		
自己評価作成日	令和5年12月22日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら19年目を迎えました。介護に役立つ豆知識を掲載した広報「みんなのいえ通信」を近隣住民へ配布し、情報を発信しております。広報にて、事業所の取り組みや利用者様の様子を地域の皆様に知っていただけるよう努めております。利用者様、ご家族の思いを大切に、人生最後を安心して健やかに過ごせるよう看取りを含め対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市の西南部に位置し、周囲には高等学校や小学校、幼稚園、クリニック、公園があり、生活環境にも恵まれている。町内会に加入し、コロナ禍前は、地域住民との交流も行われていたが、5類に移行したとはいえ感染拡大に対する危惧から、外部との接触を伴う行事、ボランティアの派遣等に踏み切れないでいる。そのような中でも、毎月利用者の生活の様子を写した写真や介護の豆知識を掲載した「みんなのいえ」通信を家族だけでなく地域にも配布し、地域とのつながりを大事にしている。理念である「共に和み、共に生きる」を基本に、利用者が楽しく過ごせるよう人格の尊厳・尊重を常に考え、利用者の生活を支援するため、利用者の思いを受け止めながらゆっくりとした時間の流れを作り、事業所での落ち着いた生活を送れるよう支援に努めている。何でも話し合える職場風土の下で、職員は利用者本位の介護と安全の確保に資する提案を行い、一つ一つ具体化されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年3月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」を運営理念に掲げ、安心と尊厳のある生活を営めるよう礼節を持って接し、笑顔の絶えない明るい職場を目指している。	設立当初からの理念「共に和み、共に生きる」の下に身体能力の維持と安心と尊厳ある生活、利用者に対する礼節と尊厳など事業所運営の根幹となるものを掲げ、それに沿った介護の実践に努めている。勤務歴10年以上のベテラン職員を中心に、日々の支援を行いながら明るい職場づくりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス発生により交流の機会を持たなかったが、「みんなのいえ通信」を地域に配布し営業所の取り組みを発信している。	5類移行後もコロナ禍の影響を払拭できず、近隣の小学校との交流も再開とはほど遠い状態にある。警察、消防のほか小学校を含む40世帯ほどの周辺の家庭には、利用者の日常の写真やタイムリーな内容の介護の知識を掲載した「みんなのいえ通信」を毎月届け、地域の事業所としての役割を担う一助としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「みんなのいえ通信」に豆知識を掲載し情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で情報提供、助言を頂いているがサービス向上に活かしているとは言えない。	運営推進会議は、町内会長、複数の民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族を委員とし、コロナ禍の感染状況に応じて書面開催としながら2カ月毎に開催している。事業所では、市が昨年実施した運営指導の内容について詳細な説明を行い、運営状況に対する委員の理解に努めている。	運営推進会議委員は事業所と地域を結ぶ大切な役割を担う方々です。長い交流実績のある社会資源としての小学校との絆がより深まるよう、関係者の委員就任について検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方、向中野地区民生委員の方に参加して頂き相談や助言を頂いています。	行政関係機関との窓口は、さくらユニットの管理者が当たっており、要介護認定申請等の手続きや様々な報告の際に窓口を訪れている。日常の支援は運営推進会議の委員をお願いしている近隣の地域包括支援センターから受けており、最近では「スローショッピング」への参加の打診をいただいている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない指針を掲示し職員間で確認し合っている。身体拘束に弊害を理解し日々のケアを行っている。行った場合でもなくすように努めている。	全職員参加の身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、管理者を講師として年2回研修も行なっている。入居時には重要事項説明書及び身体拘束を行わない指針により、利用者及び家族に説明し同意を得ている。立位保持が困難な利用者の事故防止策について種々検討しているが、現状、これといった効果的な解決策を見出せずにいる。	介護に困難が伴う利用者のケアの在り方については、先進事例を把握しながら行政や地域包括支援センターの助言も得て、効果的かつ実践的研修に一層取り組まれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、職員で話し合い取り組んでいる。小さい内出血等も見逃さず「ドキッとノート」に記載し情報共有している。ストレスをためないように個人面談を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を用意し勉強している。成年後見制度が必要であれば話し合い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書で説明を行っている。不安や疑問をお伺いして理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時など、家族様とコミュニケーションをとるよう心掛けている。その際の意見や要望をお伺いし運営に反映するようにしている。	家族の来訪機会を確保するため、2、3ヵ月おきに日用品を届けてもらい、その際に意見・要望を伺うよう努めている。事業所として当然の報告・連絡に感謝する声が殆どであり、特にタイムリーな対応に対する評価が高いと受け止めている。事業者では、家族は利用者の元気だった当時のイメージを持つ傾向があることを踏まえながら対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とコミュニケーションを取るよう心がけている。個人面談を行い意見や提案を聞き運営に反映させている。	職員が考えたこと、感じたことを、包み隠さず話す職場風土が出来ている。職員は、利用者本位の介護と安全の確保、更には職員の負担の軽減に対する関心が大きく、提案のあった入浴時に用いるスライドボードや車椅子利用者の移乗ベルトは、導入効果が顕著で職員の期待に応えたものになっている。職員との個人面談は、年2回行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員個々の取り組みを評価している。資格取得を推奨し、資格取得時は資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を行い、職員の現状把握に努めている。管理者は職員とコミュニケーションを取るよう心がけお互い助け合って作業に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は会議などで交流の機会があり、情報交換し事業所のサービスに活かしている。新人研修が行われ、勉強会と他の事業所との交流があった。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と家族に会い、要望や不安を聞き安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より入所への経緯、不安、要望などを聞き、個々にあったサービス提供に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって何が必要か共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはできる範囲でして頂き、共に支え合って暮らしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のうれしい事、心配事、状況をその都度家族に伝え、共に喜び、悩みながら理解と協力をして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯で友達、家族に電話をしたり、面会に来て頂いたりしています。	入居時に収集した情報やその後の介護を通じ、馴染みの人などを把握しており、さんさ踊りや高松の池に懐かしさを感じている利用者が多い。加齢によりその意識は年々希薄になってきている。馴染みの場所を思い起こせるようにと企画する故郷訪問ドライブの先は、生家とする傾向が強くなってきている。かつて同じスポーツの趣味を持つ友人が訪ねてくれる高齢の利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴を把握し座席を考え、利用者同士が関わりを持てるように、職員が間を取り持ち支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談を受けている。		

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく希望、意向を聞き、困難な時は職員で話し合いをし、少しでも寄り添えるよう努めている。	職員と意思疎通を図り自分の意向を伝えることが出来るのは、両ユニット合わせて半分程度の利用者である。住んでいた県北の家に帰りたいとする願望を持つ利用者があり、家庭の事情で困難なことを承知している職員は、思いを受け止めながらもゆっくりとした時間の流れを作り、事業所での落ち着いた生活を送れるよう利用者に寄り添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを取りながら生活歴などを把握する事に努めている。職員間で情報共有しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状況を見つつ、変化や気づきを申し送りノート、ドキットノートを活用し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状況を主治医、訪問看護、家族に伝え、情報、助言を頂いている。本人、家族の思い、意向が反映されるようプランを作成している。	入居時に作成した介護計画は、全職員によるモニタリングを経て概ね3か月後の職員会議において、主治医、訪問看護師の見解や家族の思いを精査した上で見直している。全ての職員が入居者全員の介護計画等を把握しているため、急な状況変化にも対応できる体制が出来ている。その後は、原則として6か月毎に同様の手順で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録で生活の様子、食事量、水分摂取量、排せつ等記録している。申し送りノート、ドキットノートでも情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合、買い物の代行や受診の同行等行っている。利用者様、ご家族様の意向に沿えるよう努め、状況の応じた支援を心がけています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスが5類に移行したとはいえ恐怖心があり、外部との接触を伴う行事、ボランティアの派遣等出来ていません。「みんなのいえ通信」を配布し情報発信しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に利用していた医療機関を利用する方はご家族と一緒に受診してもらい、往診に来ている医師を利用している方は月2回診療を受けています。	家族と協議を経て、利用者全員が入居前のかかりつけ医を事業所の協力医に変更し、月2回の訪問診療を受診している。特別科の受診は原則家族の付き添いとしている。訪問看護ステーションの看護師が毎週訪問し利用者の健康管理に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している訪問看護に週1回訪問してもらい、日ごとの状態を伝えバイタルチェックしてもらったり、気になっている事を相談し適切な対応を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、利用者と家族が安心して治療し早期で退院に向かえるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を迎えるに当り、本人や家族がかかりつけ医、訪問看護等と話し合い、方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居の際に利用者と家族に対し「重度化した場合における看取り指針」を説明し同意を得ている。状況の変化に応じ訪問診療医、訪問看護師とともに家族に改めて説明し、家族が事業所での看取りを希望する場合には最後まで支援している。開設20年になるが、概ね2年に1人の割合で看取りを行っており、職員も多くの経験を積んでいる。利用者の重度化等の進行に伴い、入浴等の介護に困難を生じているが、現状、特養入所を当然の事とせず、職員の工夫や相互の協力の下で介護している。	

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制が整っている。連絡先は一覧にまとめ同じ場所に見やすいように掲示している。ヒヤリハットも活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を火災2回、水害1回実施し、火災避難誘導を日中や夜間での想定で行ったり、水害時の避難誘導も行いました。	火災避難訓練を2回、水害時避難訓練を1回実施し、火災避難訓練のうち1回を夜間想定として実施している。事業所の問題意識は、北上川と雫石川の氾濫による洪水浸水区域の指定であるが、避難場所を南公園とする以上の具体的検討は今後の課題としている。主たる備蓄は法人本部で行なっている。	洪水時避難の方法、避難着手時期、避難場所等について、一定の想定に基づく基本的な対応について、BCP策定の一環として検討されることが望まれます。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりの性格や生活歴を踏まえた上で言葉かけを行い、人格を尊重しプライバシーを損ねないように対応しています。	利用者が持つ他人の干渉を許さない私生活上の自由を確保するため、日々の生活の中でやりたいこと、やっていることを尊重した支援に努めている。排泄介助に際してのプライバシーの尊重は、利用者個々の状況に応じながら、可能な限り確保し人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や更衣(衣類の選択)等、本人の希望に添えるように選択肢のある声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において、なるべく利用者様にペースに合わせて無理のない暮らしを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際にどの服を着たいのか選択をいただいています。髪型においても気を付けています。2か月に1回床屋にもきて頂いています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたいメニューを取り入れたりしています。	四季折々の食材の活用を念頭に、食事に興味を持ってもらえるような楽しいものとするため、会話が盛り上がる食材も用いながら、朝食は冷蔵庫にあるもの、昼食は以前に栄養士が作成したメニューを参考に、夕食は宅配冷凍食品としてそれぞれのユニットで調理している。菜園やプランターで栽培した野菜も食卓に上っている。買い出しは月・金曜日に職員が行い、テーブル拭きはこれまでに比べ担える利用者が少なくなったとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カップの大きさや持ち手の有無、とろみ剤、温度など、飲んで頂けるよう工夫しています。毎日、水分摂取量の記録をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。月1回歯科往診、口腔ケア指導を行っていて、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時トイレ誘導を行っている。落ち着かない時など、トイレの声掛けなど行っている。	入院して戻って来た利用者に排泄の支援が少なくなった例はあるものの、年齢を重ね介護度が進んでいることから、現在の機能を維持することを目標に支援している。利用者のうち数名は布パンツ利用だが、大半はリハビリパンツとパットを併用している。夜間ポータブルを使用している立位が困難な利用者の安全確保が課題としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々、日々に応じて下剤の量を調整している。毎日、ラジオ体操、ホール内歩行を行っている。食物繊維の多い食品、乳製品の提供を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ香りを楽しんで頂き、季節に応じた(バラ湯、ゆず湯)等に行っています。利用者様の気分体調に合わせた支援を行っています。	両ユニットとも個浴となっており、利用者は3日に1回の入浴としている。介護度が進んだ利用者の入浴介助は職員2人で当たっている。同性介助を希望する利用者には対応している。	

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて昼食後、昼寝をして頂いたり夜間ゆっくり休めるようホールで過ごして頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化を主治医に報告し、内服薬の変更がある時は職員間で共有し体調確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみを役割として手伝って頂いています。気分転換を図るために、短時間で出来る活動を心掛けています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせてのドライブ(花見等)を行い、駐車場で花見をしながらおやつを食べ季節感を感じて頂き、気分転換を図っています。	平屋造りの両ユニットを繋ぐ木製のベランダは、お茶会などを想定したものだが、去年は連日暑い日が続きそこでの催しは出来ていない。コロナ禍の酷暑は利用者の外出機会を少なくしているが、それでも、1時間程度で戻れる高松の池などに季節ごとのミニドライブに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と外出の際、外食、買い物等でお金を使っておりますが、外出の機会がない利用者は使っていません。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎週家族から電話して頂き会話を楽しまれている利用者や、自分の携帯電話で友人、家族とお話をしている方が居ります。			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調を利用し快適に過ごせるよう調節しています。季節に合った掲示物を一緒に作り、掲示している。	小上りを備えた居間兼食堂の広いホールは、エアコンとパネルヒーターで室温が快適に管理され、天窓からは明るい陽射しが差し込み、毎日のラジオ体操、ホール内歩行の場ともなっている。食卓を兼ねたテーブルが2台、ソファも2台備えられ、利用者は指定の席でテレビを観賞したりしている。さくらユニットの奥の壁の真ん中には、入居前に利用者が作成した刺繍が全体を見回すように額に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだりテレビを見たり臥床したりと各自過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、仏壇を置いたり馴染みの物を飾っています。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、パネルヒーターとエアコンが備え付けられている。入居者のお好みの写真を飾ったり、仏壇やテレビを持ち込み、それぞれに居心地のよい居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に応じ介護用ベッド、車いす、ポータブルトイレを使用し安全に過ごせるよう対応している。		